

日時	令和2年2月6日（木） 9時15分～12時00分
科目	見学研修2
内容	改修現場見学（遺愛学院本館）
講師	公益財団法人文化財建造物保存技術協会事業部 管理室 参事 中内 康雄 氏 重要文化財遺愛学院本館設計監理事務所 所長 内海 勝博 氏
参加者	42名（技術者：26名，特別聴講者：16名）



中内講師と内海講師の説明



明治40年竣工時のアスファルトルーフィング屋根



木摺り下地



旧講堂解体，復元利活用



大鋸屑響止め（2階床下）



装飾が施されたラジエーター

旧校舎の痕跡や，その後の改修の変遷から，校舎新築時の設計者の考え方や当時の材料や工法などについて説明を受けた。

設計図や新築時の写真と現地の状況から解明し，活用されている建物の中でどのように復元修復するのか，その過程の一端を見学。

日時	令和2年2月6日（木） 13時00分～16時00分
科目	演習
内容	現地研修（旧ロシア領事館）創建時の材料探しと劣化状況の把握
講師	公益財団法人文化財建造物保存技術協会 事業部 管理室 参事 中内 康雄 氏
参加者	43名（技術者：27名，特別聴講者：16名）

## 歴史的建造物の価値

日本で唯一残る帝政ロシア時代の領事館建物

## 建物の概要

創建年代 明治41年（1908）12月

設計者 リハルト・ゼール，ゲオルグ・デ・ランデ（ドイツ人建築家）

施工 佐藤誠（函館市旅籠町の棟梁）

構造形式 煉瓦造2階建，小屋・床木工組，屋根瓦棒鉄板葺

延床面積 1階428.12㎡，2階253.90㎡，

その他 景観形成指定建築物等（平成元年3月1日登録）

## 建物の沿革

安政5年（1858）にロシア領事館が箱館に開設され，幾度かの移転の末に明治39年（1906）現在の船見町の高台に建設された。竣工後一年も経たぬ翌年8月の函館大火により建物は焼失し，その後再建されたのが現在の建物である。その後，昭和19年（1944）までソ連領事館として使われ，戦後は外務省の所管となり，昭和39年（1964）函館市が土地，建物を購入し，翌年には市立道南青年の家として開館したが，平成8年（1996）に施設は廃止され現在に至る。

## 建物の変遷

大火前の建物は現存する設計図と焼失後の古写真より，構造は木造で1階部分の外壁に煉瓦が積まれていたと判断される。2階は木部が露出していたために，大火の際には延焼により焼失したと見られる。現在の建物を建設した際には，残された煉瓦基礎の上に以前と同様の建物が忠実に再建されたが，耐火を顧慮して1，2階ともに煉瓦造の建物に改善され，また玄関ホールと北側の階段位置や一部の間仕切壁位置なども変更された。

研修施設として改修された際には屋根が瓦葺から鉄板葺に替えられたが，外観では玄関上のバルコニーが失われた以外は大きな変更は無かった。1階内部では間仕切壁の変更が少なく内装もよく残されたが，北側の部屋が事務室やトイレなどに改修された。2階では階段ホール及び廊下に当時の様子を残すが，他の部屋は宿泊室として間仕切壁を含め全面的に改修がなされた。

## 建物の見所

- 外観 ・ 玄関唐破風と持ち送り彫刻・二階漆喰柱型と一階漆喰角石など
- 地下 ・ 煉瓦基礎と床組み・ボイラーと大火前の暖房施設など
- 1階 ・ 各室に状態良く残る内装・二重窓，扉・西面バルコニー・南面サンルームなど
- 2階 ・ 小屋裏から見える壁の裏面・西面バルコニーなど
- 小屋裏 ・ 特徴ある小屋組・小屋裏への階段など



現地研修の参加者

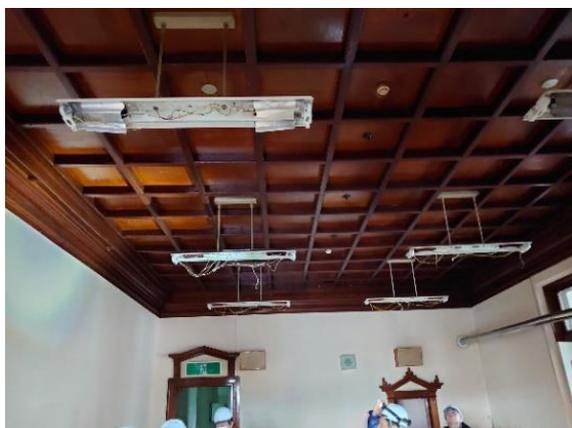
5グループに分かれ、外観・地下・1階・2階・小屋裏を調査・観察・記録



外観・観察調査



地下・床下観察調査



1階・観察調査



2階・観察調査



小屋裏・観察調査

建物の5つのエリアについて、建設時の技術の痕跡や工法、材料などの観察調査を行う。

建設当時のままの箇所はどこか、当時の材料はどれか、興味を持った箇所を写真と平面図上に記録した。

参加者からは、「函館の大工棟梁による建設、短期間で完成させた力量・技術力に改めて感心させられた」という意見もあり、先人の仕事から技術の一端を確認した。